

共古日錄目錄
自卷一
至卷二十一

紙

天出天...

...



特別
15
1413
1



門 45
號 1413
卷 1

共古可錄卷之一 目錄



佛像圖會原枚
湯瀨りある知同銀
鑄銀屋形りの墓
はにの二に青右のふくしとの説
淺草會陣列書り録
水野平八
大辨力天祓談
國語の古枚
枚研の分布
藤八五とカロンコー
横穴塚完合葬の多少
無文錢
弘平の千社札現存の寺
無文錢
島々園近く石塔出る地

巨和甲 大塚 信書 16
25 10
賤



建武の年号ありて佛

正倉院三倉

佛

信玄校の類

京大佛殿瓦の年号

繪塔婆

アノ又諸の日本人及歐人

マレノの祖先の石をマ用いリ

蜀時代山の手より小倉近の駕籠賃

米倉筋の遺物

支那の石斧

寶永五年江戸繪圖

應仁の年号ありて牛王

然るを念すハ近年あり

下谷の石の形は以前より

安房の玉曲玉

銀和同銭出土

曾我兄弟の墓

根津神社の石

マレノ人の日本人を称すハ諸

淡草人形

四谷水邊所にあし古墳

手長岡及屈支岡の石

元禄二年の江戸繪圖に二枚あり

正徳三年江戸繪圖

元禄の古作

出雲竹見之山寶友之經卷

永正十六の經筒

法華寺徳宝珠銘

東寺鉢敷の銘

東大寺一徳房古作

春日社明應の燈籠籠

藤林神社徳治の石

天文の年号ありて臺石

天平期の古像

延長の金銅餅

康平の三鼓胴

慶長の板四體千字文

二永年号ありて宝篋印の石

東大寺の石

米迦寺の鐘

宣生寺大日靈鏡

大徳寺洗手盤

長谷寺千體佛

長祿の古作

新嘉納永祿の石

和同の靈盤

寛弘の經筒

極樂院柱上の彫文

七澤屋雛

貞幹自筆の錢譜
角力番の古の
千社大に記せし物
物の本とつふ事
奈良の聖人の佛像碑
正應の銘
弘明二年の牧碑
茨押の書目
經石の出土
瀬戸名作の六作十作の釜印
江戸市中高人の呼聲
内閣文庫の功利支丹書目

一枚どりの番附
中橋の圖の江戸繪圖
人形師弓勇山
東照宮順并業内
永樂銀錢
新井村四家の紋
錠殿鍵殿
鉄鑄大釜
がらくび錢
東大寺の印ある寛喜の古經
房中善明寺古鉄大佛
多智城碑真徳太子の見方

周本近江守詩を伴う猿を禁せし
おらるゝ猫の火の作人
小松寺貞治の古經
蜀山人時代の車留札
谷中七福人修繕の由來
元祖大菩薩とある寺の筒
編みもの
新鷹匠の竹小刀
佛足石
船河原の古出の尾
日本橋の名称
川柳の六右衛門

招き猫
古刀布の層
小松寺の古文書
男山の記せし石像
享保年代の筆記のせし羽子板
藤岡屋由藏の日記
板碑の古卷石
白鷺の石像
川運出の土偶
白山妙壽寺の古碑
書物を本とつふ事
子とを戒し小冊子

古岸屋痛松

藤岡屋由藏の小傳

山崎美成の筆記に載る下平井村名至田父藏殿座の古記古物

画口合

朝鮮鑄造年代

熊谷せんぶ

耶蘇の画像

弥勒の年疏

熊膏土平の墓石平

大久保西山の文庫

支那の古書賣物とみる

天明頃唐本の通版

大徳寺の古書賣物とみる

蒸和重寶と山丹の横造り

立川の五川流

日暮里修性院の石表

對馬の古鐘

弘決外典抄發見

駒込の出土古碑

土岐三郎の墓

淺草の古墓

北齋の墓

鳥帽子石

駒止石

狸狹の墓

一蝶の墓

寶盛の墓

十返舎一九の墓

本引馬の墓

衣塚

豚塚

馬琴筆塚

菊人の墓

武田信玄新右衛門の塔

龜塚

自隨齋先生の墓

立派の墓

薙太の墓

檜洲の墓

旭濱の墓

歌右衛門の墓

九十九の墓

種彦の墓

頼朝の墓

瀧川一益の墓

孔平の墓

土山の墓

乾山の墓
 幸野の墓
 京山の墓
 華山の墓
 蓮生坊の墓
 丑一の墓
 一齋先生の墓
 鵬斎先生の墓

藤岡屋由藏日記中の目
 孝行糖膏
 高砂おろし
 車輪糖

福壽司
 御利生糖
 雷おこし

菱湖の墓
 小堀の墓
 龍野の墓
 樂翁の墓
 眞唐丸の墓
 抱正人の墓
 興以の墓
 石あささの墓

流行也及不流行の
 入船おこし

共古日録卷之二 目録

御徒の各目
 琉球雛
 大船の般若経
 中道寺鐘銘
 牛太史の墓石
 古本あるくさたの娘
 應永の火般若経
 淡草親吉の鐘銘
 石のむかえ
 千田屋兵衛
 江戸金石録誌

金賣吉次の屋敷跡と出土の鈴
 小野望作と子商磨火工
 物認本一芥菊
 芝倉坂堀出石塔
 虎が塔
 春日鹿角うろの塔
 朝鮮語文の千字文
 古今武才鑑
 慶長牧童歌及習
 龍泉寺焼物
 伊丹堀出古銭

為年流考 中山信名著

寛文年向流行の

流行落書

寶藏院古碑

古印

小宮神社の古鐘

二の宮の古鐘

金峰山の古鐘

天文の繪馬

古武鑑 明曆板
室永板

三鳥曆

渡世袋

印書考

江戸風俗

天から

深大寺古鐘

天正の繪馬

鳥柄の古鐘

松蓮寺由來記

高幡不動の古木印

駿河墨本抄写

かゝるび錢

千僧錫

西宮所供物

源清道著

服飾
行平錫

繪草紙

多摩郡山形村竹小原の家元

とくふ玉

桃美等雜遊和記

狗背出立の直刀

二尊院五輪塔

冷海園帖に出る古本像の現藏者

山縣昌貞自筆本

甘所邊の墓

渡世雜類考前書

山の寺會記事

朝鮮の習帳

銀雜と名物

朝鮮古貨幣

右神村由為其の家元の壽年

言保金銀賣詞

直交雜

御狸様

室永大銀屏正の時記

慶元堂日記

是磨石像

大津繪ふし

朝鮮埋鏡一集

大藏經板本

以上

山の年會記事中の細目

山の年の名詞

見せ前の歌

湯を掬丁の意

春の河原橋

左の坂の燈籠

丹原大の歌

一ツハタゴと木

成瀬の元祿長屋

玄同放言にそへた山の年の歌

一語一言所載古文字中の山年

大津繪が中の細目

の意見

流りの

北づく

初午

まぐれ獅子

岩盤寺の五層塔の通稱七郎の者
かき屋のり店

戸心の祝
戸心の祭壇
馬子歌
リスの皮

慶如をなまきりかす
赤城神社の板碑
安永舎利塔

石叢堂
藤田火車
玉井のわし

山伏嵐山の歌
船石
比叻丸
河原の怪

四谷天王の四世
四谷天王社
三十二歌仙の歌

木綿
後田寺
白山銅鳥居

丹見三河屋の三河屋の總本家
吉田屋

平亭銀鑪の記
かき屋のり店

共古日録卷之三 目録

江戸の盆歌

永正の貝注曆

美草集はたか歌書の跡本

田安家蔵の錦雞綴

守武の世の中百首原歌

鮎枝の古状揃

中禪寺の歌

日光古鐘銘

泉貨鑑簿福福

七遊山

和歌百鬼夜行

からめらん

元和歌の破耶書

うを字づくしの俗言

美草集の原歌

骨董集の原歌

鴨江觀音堂の宝珠銘

中禪寺の古歌集

勝道上人の古碑

新六弥陀

あまを所載する供養の言葉

宣原歌菊相模

雜草子の種類

所吹屋の看板の書人及火坊の籠の子

泉本統志

陸軍大臣官印の古大砲

元禄室承の帳曆

書画會の始及書画會藝者

雛人形の本

武蔵の行基燈籠の跡

佛庵の墓

壽比南山錢の錫銅鉄の寸尺

大田會社の墓

木堂卯雪

吉見義方

男心長書中の金石印譜

張新葉の蔵錢書

竹内久一父の彫刻物

皇帝萬歲印

湖刀加鏡

了阿弥の巻物

京みやぎの蔵の古物

重箱蔵の金平本

吉原神社

北山先生の抄録

板母先生の短冊

三つりの小冊

北海言の短冊

鋸鍛冶の印

金持の墓

浅草文庫の蔵の古本

天幸堂の双瓦

投扇興の古書

布川尾の古物

高島川の柳

遠州三ヶ所燈籠の古物

ギリミヤ古物屋

縁書

桃太郎團子

採選亭の古物

サボシの名紙

酒造家坂エ

馬琴駱駝の自画扇面

真野大蔵

耳が松みくら

天和板歌字づ

慶長板蓋性能書目録
此を角田の子守歌
新天保敏の銅色
甲斐新山の經筒
銅鑄十二枚出心
事長持禁止の年月
約新後火出經筒
異りたる者枚
及天神
貴人幼童の言葉
土鈴
天明老人の歌

古物馬札
三笠の禁止の年
黄茶用服紗の寸法
京水晶産地
甲斐西木子の研及墓心
此を角田堂捕書目録
主方好の田板
然草奥儀抄
江戸名所の今な
四観音
昔ある遊宴と好の記

高京焼
招き猫
十五天守の玩具
書の画
松葉牡丹の名物
伝平の身
樂器の錫の替
鳥籠箱
鷺やの童謡
火の筆と瓦
柳葉の筆
り仲の歌

枚碑
遠江の風
かり渡り
狂言記本巻本
麦好子の書
さくまの記
古物あつめ書載りの
仙傳ふれ
見高草百五十六巻

柳庵子孫の墓也
井上竹逸
小鏡抄底
宗柏寺也藏
買物帳
多賀城門の高
根討印
竹内玄都
京省に於てもうやかと古鏡
一宮講の文字と外は海
了仲藏見心玉馬
唐雪龍英日本圖經

木綿扇と紙と懸し始て五人名
馬具煎
神田上水の蓋石
籠細工の貝せせ
名家の墓也也載り新誌
三貨圖會彙
甲府形了高其墓
市人の墓老瀬に立し和歌碑
刻せり石也
朝鮮校大書術義
信房國分寺の蘇民將來
光國郷傳記の書以籍名

豫約書籍の價
國華館芳の價
寶永治の三味線燈
武蔵國分寺古瓦と同一の瓦也
本邦の墓書の石古碑
曆應の古鐘
築山東福寺に甲書せり墓あり
和歌三内子
蜀山人鶴亀の墓
萬歳の出也方
加治木鏡の埋蔵
貞幹の墓

冷清園帖の出枚者
横穴入りの方角解説
甲斐大井河内社馬田植寺
天保十五年の大小寺
鏡蓋鏡石在及定数
支那古韻考
弘安板碑を用也墓
京傳の和歌
赤毛馬し
志道軒の書
小説家の墓所
乾隆錢背母南の文字あり

大津東所

名僧書札棟札又曰建武

金言塔形の筆塚

林の家の四角也

江戸の古銭高

猫の埋葬

紫色の陶器

石川良平の好物の

千紫萬赤の書名

鉄屋圃と称する也及大通國古銭

水戸銭元豐通寶の鑄銭

料理店の玉子生提灯

豊田即と鮎田即

東武二の收研

本橋即の古鐘九古棟札

狂歌評判記

双の甲老人の古物

高倉天神の納め所棟札

豊田早太郎の豊祠と社

まやの江戸出し年と長尾峠

柏原學子而翁の山梨寄度の詰

志道軒の書名

蜀山人其也歌

河内羽二重

他人千代女の書

叶福助の説

自然石のわか先

日光真院の秘佛とふり

尾端の礼と盗人信じぬ尾端の歌

鑄物鉄製木魚形の火鉢

東京に在る古門

茶室に燒草を並べ許せし人

聖福寺出土古金銀器

料理店の玉子生提灯

豊田即と鮎田即

東武二の收研

本橋即の古鐘九古棟札

狂歌評判記

双の甲老人の古物

高倉天神の納め所棟札

豊田早太郎の豊祠と社

まやの江戸出し年と長尾峠

柏原學子而翁の山梨寄度の詰

志道軒の書名

蜀山人其也歌

河内羽二重

河内羽二重

燕花

釘の形の棟札

慶長枚蓮公薩摩略傳

彫れ上子の念

女座磨の石

冠師の香板

あまや餅

の譯字

支那年表の表書

儀皇錢の記

刻本表志の誤

此年次表行

地押と子詞

ラリスレンの身作られた古銭

燭逸勢の墓とふの

器画

大倉氏の古物館

狂言本出板の初本

喜望の貝貨幣

石田未得の狂歌集要

朝野年中行事の著者

三橋松山氏の著

切支丹宗の来朝書記

根岸武香翁の成マツ高標の教

海類編

持川謙果の記者

鶴塚

伊豆國分寺古跡及古瓦出土の地

梵文の経典

下巻の狂歌集

尾州屋の屋敷也

錫種文鏡樹の圖

増田寛孝氏の然印の行

是字の守りの出所

周崎の車塚

北園堂の松佛

林山松山の異称

中野の古碑

支那古碑と金石書

永安寺の古碑

播磨の所つ古蹟茶室水跡

應永の火伴

妙清寺慶長の碑

筑後の石碑及古塔

祝部焼の迹

日向の古蹟新古及古にわ

然を念せり

書詔の古釋杖

大同の必成

清國金加辺の古跡及土塔

而比利垂流の跡

小野小町の塔と鐘とふの

枚碑 北園堂即也

明德の書版

上總の標

相州大町の古蹟

尾張の古蹟塚

北園堂土工の時理證

あざむき丹毒の画

ウンスーガル々全部所持者

波の音まく天氣を知ると云

新田の猫

箱根の古石佛

狂歌書籍

紀伊大同の握佛

堀部安兵衛の書と云書奴

信那の地留玩具

小金井出土の石俵

高井蘭山

市川寛齋著日考詩記

改心師の長巻の巻

竹帳 古巻帳

琉球國の古塚古墳

滑石人形

相ノ加中郡の鐘年號數

大猷院殿の石燈籠

元豐錢出

小豆江氣福寺の鐘年號

瘤寺の收碑

アラスカ心收の皮むらの画

此寺の日の起るるを云

吾羽蓮光寺の古巻の巻

カルタの詠原

鹿嶋の經石北の英鐘定公の藤及

ケールン石塚

近藤重藏の石像

七十五日

信濃の經石

唐来三和

備前の熊尾

支那の古物商人

蔓草を植ぬ家

の庵漢江の巻

家茂公の牙印書

かぶ年の絶みず

古文書の与の字

森岡に古墳

收碑

摺笈

古泉必名考

收碑 上馬

箱崎法興寺の鐘 宝曆

二寺樓清林寺の寶函石塔

六甲の石塔蘇我氏将来木造の巻

支那の古物

收碑 川の居大寺

古鏡の画

四方者の古印

和文の摺書書籍

八兵衛石の図

阜田真書鏡と二ヶ薩年を待てる人

忌部焼窯の跡

古鏡

江戸時名高の念の如

江戸時代の形を写す

牛の袋所の山立寺

蜀山の和歌

博愛堂在古印譜日録

新高野の遊歩道

大前富

四谷天正社の石獅の鏡

東京道路工事申出書物

身屋使用の巻の名人

本所の七不可思議

細屋敷の内職

身屋の暖簾と玉井の簪

江戸時代時鳥の名所

一里塚 青い石塚

貞幹の古瓦譜

瓦無の鏡

白雪糕

秋田より出土皇朝鏡

枚碑 川崎

岡本三左衛門墓

十二叢の水盤銘

年表二種

二分金土包の図

江戸時代の珍書中家

本朝書目録

細字書者

襦の図

寶永板の日本輿地圖天竺板の地球圖

桂湯殿高野の四河一の宮本也佛

四谷天正社木太刀の鏡

般若者の歌

身屋丁の名人

高田家の發起者

江戸の奇石

女醫者

枚碑

新島明治初年と東京の多く

鏡の名人

佛刺古瓦譜

錫割板

西田福太郎の石川の坂
菅野の出張所
本郷原安角道が江戸
四谷くうやみ坂の修築代金
四谷坂の名称
麻布坂の名称
秋を極の園
半香の墓
耳と川と子路筆
曾見祥抄
里見家の子孫
牛馬とともむ村音
等野の親世音

尾崎七十三の物部入道
麴所での空齋店
小島とふし大味曾を
くまのの物
四谷横丁の名称
麴所坂の名称
三股極の園
吉田雨園の墓
鉄鉾及それの物部
甘藷畑の年代
やうのふせ
寶谷の記
以

共古日録卷之四日録

大坂砂持の極と心まの
盆景
六合新開
狂歌名称
京都名家の墓
慶元堂日記北尾重政の傳
奈良春日祭の極と心まの書
人柱お三の社
千代徳義の心弦及家業
一豊舎の家業
北山の錢屋

延享四年の江戸繪圖
もしのふし
おふの極
所火の初
狂歌よみの本名
おふのふし
書目の書目
繪馬額補 初代二代三代四代
逆生佛二子あり
北舟漫遊の十四十五は北舟にあらず
こ力三錢

狂歌の古三集
水とんやの名板提灯
江戸の多習筆事
かんくい銭
古書の名板提灯
五三集蔵とる者名をじこの
探幽印の刻者
凡神の異名
松飾の種々
會津曆
力石の名高きもの
小野篁と紫式部の墓
交枝の對錢譜

たがやあんど仲の町の提灯
提灯の名板
鉦鼓後彫銘
經石の題したる狂歌
天明時代狂歌作者小傳
明代、狂の聯石
桐の硯
成田の板碑
喜永六七及安政元二三の落首
力持小屋の力石
金澤文庫本
瑞寺心經
無垢考

獨逸國に下谷坂の鐘あり
江戸の盆鑑
石船
出土古銭
若原源三と青楼美人合
狂歌画本浪花の心史
石角の妻に懸骨と云ふ人
起請 つが
琴巻再興の巻のなやいも
平ゆたしのね歌
かろくし人形
常山土浦ノウサイ寺と稱す也及少野小所の像と物をと成大室のころ船

狂書畫譜
天明調再興の狂歌集
狂書の大倉家所傳の點印
書肆と狂歌を詠し者
童明古書今物語
慶長板取伊勢物語
香草とるむさうの歌
かろくしの如
ねだの如
演書業笑ふを更紗と銅鼓
交枝の古銭家名前
常山土浦ノウサイ寺と稱す也及少野小所の像と物をと成大室のころ船

北海道の舟車平定録
文政改の詳判の考
菓子賣の富なる者がさう木いせ
あ成道の七高
多高寺の狸塚
金石策に載せし書鏡鏡
熱人の舌の頭及びゴロ子
錐と納の神佛及鎌と納の尾張軍
破屋の市前繪
二永亦二の貝住磨
玩具を自れし人
伊勢の土産録

江戸志の引の成るの鉄
真書文久銭
柳樹 大津画の佛画
あかひの鳥板
寛政時代の番所帳面箱
博古園所載鏡鏡龜鈕
人形屋の鳥板
三崎西所古宅と出た寺
山の寺の跡の跡路
鈴木真年

元治元年の三方園會と江戸の園會の價
支那磨製石斧
代官の林器と二前なる車力の量
長柄橋杭
波長のちのめり武政のちのめり
西の院橋の葦料製刻の倉高
大樹
多なるが勢書
新川の石餅
陸中の古蹟出土と不知同銀
英國の織物と渡り
江戸第一の地車

硬の鑛の量
天福年間の大般若經
長柄橋板
此の所五年の半年前津田道の子の形
好色伊勢磨
板碑
西天と和のり人々
此物の画巻物
好色本よりみみの物
好色本は江戸みやかち跡本の價
大石を釣り変にせると云せし人々

サシダン師

浄瑠璃三段の作者の通にあらず

といしなるうざや

つゝ

コボクルの意は銭

雄長老の狂歌集

文字焼の名人

古蹟中にあり布片

塙

伊勢童謡細目
戸かり おわり 夢と
お月様 守夢 尻きり
山の神と 珠と

死馬と見物の出づは方

銅の羅はうう人の銅鼓よりうらと

古人の分帳画六名を集し人

サレ川の池石を出土也

マコホールの紀行、載目録

川船の画巻、所用の舟名

衣の形、標記の詩

志の形、細工の名人

斤假名曆

共古日録巻之五目録

塩原多助の抄や教名

古塚

王子守

古写本

大坂物語

砂村八幡の碑

古板及

南蠻鉄心金三圖

芝浦の狂歌集

北の狂歌集

行徳徳頼寺之及宮本武藏の墓園鳥小煙とふ鏡

神田川々底の石

天狗の塩漬

嵯峨本伊勢物語

古板三世相

狂言記

か藤藤四郎の御札

府下の名木

狂歌の面堂と桃の屋

宮本武藏が習字の紙とふ心

天和と元禄の年号、藤原と武蔵

雲雀の鳴聲
 長壽者易義
 金澤丹後の餅の引札
 市川右太衛門の舊来の家業
 探墓家より名物と云ふあり
 高田戸塚箱の水盤銘
 弥生式と出づ貝塚
 手宮の古物
 大朝金合鏡
 朝鮮國納め馬の図
 州のまゝ新村辺に遊遊想出たり
 瓦倉の村名
 盆造
 古袋
 竹村屋中の高標
 橋軒の墓
 萬物及び宣の墓不詳
 正曾井
 高田戸塚箱の水盤銘
 横濱右春出玉の心
 銅鏡と右春と出玉心
 金光四天王護国寺の額
 古墓の刻圖
 承應の江戸繪圖より中持り
 ケルン發見の古物

青磁香合と七玉
 龍島山と景と誦経書景
 三月堂右燈籠の銘
 銅鏡圖
 幡鉦の図
 銅鉦の図
 西野五太右の墓
 乳絞の手紙
 〇のうどん
 没行者の古石像
 日蓮日露の没の時に出来し物
 甲斐の石棒
 川柳の古板
 宮城東光寺の古碑
 成身院鐘銘
 銅鼓
 無文鏡
 赤影馬ふ者
 ナベハシとナベワリ
 高僧妙行脚日記
 塔の家の竹の心袖
 鈴鐺六圖
 物理諸及玩具
 江戸時代半辺の辻番の名所

江戸方面の通行の書札型
 枚研 武少海印の東京上り
 枚研 常房武少總出也
 裏子母外境の白坪
 枚研 大里即此全印也
 光福寺宝篋印塔銘及
 下出三の古物圖
 河肥古鐘銘
 枚研 下谷三輪
 正曹櫻
 大友の抄
 天眞寺の塔
 揚山九三の巻
 おう房徳兵衛の巻と持った
 六國文と蔵書家
 三輪君永寺大当所みくら
 蔵書多し蔵書印と押
 八石七の淨瑠璃弁
 重忠の巻
 講りかゝる字
 大石冬乃右持の圖
 吉見の古鐘及慈光寺古鐘
 河肥日暮山古鐘野寺

古鐘等鳴山古鐘永壽寺古鐘等の銘
 平沢寺經筒
 吉定寺杖脚
 弥勒寺古鐘
 古鯨の
 三度所と通せし三年號の古鐘
 枚研異年號
 古鐘年號及臺銘年號
 天正の燈籠 二巻
 慶長の鳥宝珠
 牛込赤城明神の古寫經
 重忠奉納の繪馬と云ふ
 一月蓮大神
 應永十の御銘
 亨祿の杖脚
 根元長承樂鐵 直末杖
 石持 及石器圖
 鐵鋒 鈕頭 古印等圖
 貞治の白版 直刀
 大里即此全印也 七五右
 石鏡
 横笛等の枚研
 枚研 法前を田印

墓志銘 河内妙見寺

山伏法用寺の図

善田寺鐘佛の銘

道標の記書

武州三軍村古五郎鐘志と同形

足立郡春田村の鐘

目黒の舊家

鐘三種の図

田沼寺會殿

菊池八幡宮鐘銘の年號

五ヶ堂鐘銘

高来寺鐘銘

高麗王の心と心

墓志銘 河内高松村

石小刀の図

神像

すいり土保の名

宝瓶形の陶器

神事とくわの鏡

江戸の富士小

家根形の板

龍宮の鐘

松浦の石

石君孫生式土器

痛石の板

筑後石人の事

長藤寺の鐘

小銅鐸

異形曲玉

更磨の石

古の鐘

料理山海經

出目の心

出目の心

英和辞書の初出

古墳の地理

水菩提の経

説文會と納れ會の起

古物會

青致和誌

無佛齋之記

古刻本

村讀の

十、猫、乃、蓮、清、の、製、法

書、年、の、終、り

越、前、の、精、製、二、種、あり

五ヶ堂 鐘銘 五ヶ堂 鐘銘 五ヶ堂 鐘銘

料理山海經 出目の心 出目の心 英和辞書の初出

枚碑 元弘教死を記すの
枚碑 武蔵馬場

新碑 清和天皇の
枚碑 武蔵白石

枚碑 武蔵馬場 武蔵の画の
枚碑 二基 示 天正

枚碑の量石
釋杖の環数

大曲玉の圖
本堂の五石 羅漢の幅を納し 三石 羅漢

古く年號を記しある地蔵石
が各國東歸を記しを同音を

三石 羅漢の幅を納し 三石 羅漢
元弘 懷水盤銘

和蘭書 最初の数語を記す
中里出玉古石物の現状

日光寺法華の敷蓮花
蜀山人の三角印

光福寺鐘の響く就々の煙霧
本末園會張出

元弘 實手銀物五法
湯誓 齋銘

純枚書 五部

年波草の著者

卯月本

有や無や 音や 音や
輸入 功玉の物 列 列

九石 焼陶器 内側に 細字 書 人
浦 蓮花 印の 画 巻 物

信加 誦 誦の 煙 印 鐵
燈 舌 系 可 神 尾 紙 書 中 三 三 部 紙 不 成 なる あり

漢鏡 出 玉

免の けいこ 乃 麩 の けいこ 圖
及 けいわ なる あり 也

臨海寺の古徳刺の圖

古瓦 出 玉 也

石 四 の 圖

鈕 歌 の 圖

檜 田 神 社 の 祭

曲玉形の古石
浅草 誓 願 寺 の 慶 長 年 号 の 墓
多 石 滿 仲 の 墓

筑前 前 の 古 碑
熱 誠 寺 我 師 の 墓
相 妙 寺 山 寺 の 古 鐘

千光寺の鉄塔
 金銀富貴の守
 鉄柵仙人の影
 父がう法師の古傳説
 源頼元が納り 鮮ひあり
 古鏡書寫籍
 枚碑 田通寺下
 辰己屋の墓
 公力福足 お出知るる
 必系親多 (釋信出降下の岡と画) 人
 少四勢双楯
 後通寺
 道安公の書とふこの

判じ画
 安三屋守
 枚碑 多收河原
 ゲニコツ和尚
 經石出所 二
 名ふふ石
 熊身掬之の碑
 棧寺
 成寺 常の精舎の寺
 群書新從と書せり人
 註の守札
 要屋の多負と申の圖
 枚碑 野老の治と及桶川也
 大橋と申
 四石の内の中

壽山福海鏡

秦漢瓦當
 枚碑 千住
 石鏡と守とふ也
 武少妙山城跡より出鏡
 松蓮寺堀出直刀
 後智阿と都と一
 以上

日鏡中三枚碑年流

貞和二	延文元	天文七	文明	明應四	宝徳二	永正二
○安二	正和三	建永二	文保二	文永十	二永十五	弘治二
應永〇	建永四	原永二	正安二	元應元	大永八	嘉吉三

相加の古鐘

石鏡の圖 上新
 石鏡の圖 周
 油杓とてつ
 普海寺枚碑の圖 三基
 湯津村出土石刀及宝字鏡

元永六 貞和六 文明四 永仁六 養元二 治曆三 正安二
 嘉元四 天文十 元弘三 文和四 永仁八 永仁五
 嘉元二 建保元 元安六 文永七 天正六 文明六 建長八
 文和二 建長三 元安二 延慶二 天文二 永仁二 正和二
 弘安元 元亨二 建永三 文中三
 以二年流知レラルル碑

目録中の圖目つ重なるもの

新重銀 永亨の笈 朝鮮計社(朝)馬形 上新銅銀
 降鈴銅銀 八角古銀馬鈴 山口國銀鈴 金鈴 銀三鈴 八角鈴
 石君勒 直刀銀鈴 銀鈴 山伏法月之斧 系糸 淨龍 銅銀
 異曲玉 免熟のほりわ 古徳利懸海方 三懸銀鈴 石五 曲玉の石
 多量之碑 石鏡二 枚碑及墓石室 函印 古鐘一々不記

其古日録卷三六日録

曾石の貝塚
 鳩居文鏡
 石君登見也 甲斐
 根沙先生の碑
 柳北前助の戒名
 古鏡家入久
 寶六郎の鏡日記
 甲府の古鏡家
 菊草
 晦字と梅字
 猫の子の目方

龍毒の妙藥
 旭堂極印
 大島孝介翁の歌
 正隆鏡の記年
 出土銀和同
 近世の他々 古鏡
 古實承の筆者
 遠江般右衛門 教也の火冠流と弘孝の歌
 三成はカズミゲ
 火渡りの羅馬時代あり
 古岩谷

山陽の鐵舟の楷書

川崎の 鐵石物

赤坂の鐵の水盤

千石の鐵の樽

大永の陶硯

猿鶴の山車

美川戸の庚申塔

シンガ堂

真山の近石谷出土の

鑛山の寺の山

遠州の元加賀より出た

重宝の知通の

宮城縣養村の碑銘

國書者加賀

柿の腫と記し書

貝心

リシガ孫

山村座番附

神所入れの四方の

古の南の

焼の

大黒天

信樂焼

銀和同出

也袋の繩文土器

熱田の赤土の黒の

左の鐘銘

乾の二刀形

料理の

鉄軍配扇

宝鐸出土

真山の舊橋

濱名湖の

ホグセの圖

石谷園

東都福島の盛衰

板碑

古陶器

右鉄

馬首の

鉄鑄

天那所湖月

大根河岸の

お狸様

服部半蔵

銅字極印

⊕ 極印 文保銀

三つ村古玉古香

利田唐印銀

郷里銀紙

十二月迄あるがため

聖徳太子入唐記

異形カシ祝部燈

いささか新玉の如く

柿の夜見せを懸き本

美安院藏書之珍帖あり

元文寛永銀座也

増上寺礎石下より寛永銀出する長崎寛永銀筆者

古銀買入通入

五稜郭血書之棋

井上通泰父の歌

猫成佛命

越後うさハの賭博

明治初年之朝鮮ついで人の話

女命神

燈と燭

大金銀の周

バンバの周 曹か

女製銀

特別辰光令古銅器一巻

漢素文鼎

つみろせふしに銀器二首

最勝寺金印

多賀城碑、就して同寺長成此の地史

アの言寛永銀

芥末 諸藩銀

伊東吉村の墓

顔真卿集字碑

大坂の土籠り

在生念佛の面

本朝銀重量

遊女食事之理説

正徳年向全國寺説教

柏原博高の日記し 讃岐の活し 及

大坂の土籠り

印膳石の始に記

琥珀玉の出玉也

武藏國分寺と同一に在り也

唐人の才

北獄草紙 先其画 鐘のたもとに

文明の瓦解

権塚の土器

田宮坊太夫の墓の図

無文銀錢の目方

湯ヶ峰出二の鉄鋸

大平七年の支那官券

十月十日のトラカンヤ

大所筑館の跡の中渡者

發狂者の病源所毒の跡

首を捲くところの起元

蘇州の用筆

磁石の成分

野刀切の古塔

玉川在上坂の石棒

藤原朝の古建築

八百余年の古家屋

千住西本願神社

谷中東寺にある高形の墓石

長崎西郷人名草紙

箱根轉々脚の元書表

但馬岡山名文城跡に就く博覧

京都山崎の山崎の代に當る古塔

平賀源一の戯言

本郷の精塚

木葉石の産地

安房の古塔

茨城石鋸と竹につけし糊

夫の半ちやく

銅鑄の出心

鬼界島石巻の古塔

福富草子に載る古の道

古代メキシコ人所用の貨幣

仕方身振話に就て

盤根山の埋蔵

異製の鎧の圖

鳥石

南京古塔の圖

地袋村石巻出の古塔

相模の古塔

大田石

陶器製造者陶器かにも石

石小刀

松浦北海岸の考古談

三浦水の碑及石社跡の類

諸外國古代の貨幣

神の根拠と神事に用ふる事

玉川村鑄馬神事の類

石草松蓮寺の古物

フランススパーコングの古物

此の土産也

東寺の塔をこらこらの高

印度の冷水徳利

雜司谷の大火根

壽福蔵遺書

永和の一字一石塔

牝川と世を割とて人

リウゴの韓語

唐詩絶句中のうゑ

豊後芝山山石

錦倉と大石の箱根路の歌

八代月のもろ行

こらこら

履物に就て

平谷の隆堂院

一三の祈願文

房加の祝部燈

方言を集し書目

依平の室也

沼津と出板英文書籍の語彙

伊予保物語の古板

伊予保物語の元和板あり別ら板の註文

古薩摩燈籠定法

浅草観音賽銭高

山の手の土産

全教録の書

度思を教下にち箱屋をわが解しあり陶器とて書ありと

秋足や方にくすのふとふと

本邦の猫の尻

錦画に就て書あり清いとの談

日本文書蔵の蔵書あり書籍

此の右

如部土俗

方言

寛政の三曲五曲

次郎床

此の書の画のう

神社敷録

あかまの物

幼童自ら知のり

比企大軍支那の倉石年流

三の祝部燈

茶室朝以平字書片

浅草市蔵の棟札現蔵書

天狗床

越後屋の髪結

製紙床の株仲商の現約及正下障子の画り等
 江戸金谷屋敷南神佛縁日
 江戸の城の時刻
 猫股橋の名考
 所一林をいつて又し回也
 吹上といし也
 所井之谷の火見人馬とて高口の田圃にありし也
 茗荷吸茗荷谷茗荷畑
 謡曲出典書目
 文身に用ふる諸記録及類
 鬼面鈴の図及説
 以上
 江戸内曲物の類
 小石川神社より十六町下村なる小石川村
 小石川の田舎
 江戸中村の田舎様記
 世袋村の田舎様記
 観世流謡本各種
 謡曲の記録考
 文記の考
 以上

共古日録卷之七目録

角力とて人形
 箱と名物とてこの
 普濟寺鐘の年疏
 右文り 燈台始末
 四十三春の吹上人の書
 江戸善庵屋の習り
 江戸の町の人を思ふの書
 下野屋甚多の書
 茗荷石の火に用せし書
 カモイ比石尊
 五月梅の清話
 和同南紙の物考
 江戸時代の子供遊童謡
 フイゴのり用紙幣の圖
 文記六年の流行考
 神代紙の出考
 甲斐東の製紙の考
 江戸の和紙考
 妙女記の考
 和星
 福助物考
 熊本料理

武刃吉見也の料理

博物會誌

寒山の翁の舟遊せしに寒山寺鐘銘

蒲中の鼎乳洞

七本足の香魚ありの説

宮嶋の廻廊一潮の上の目

海蛇波上に浮い来る日

雲母及代赫標の石のうらまへ

翁根なる種駿河に千種の植わあり

茶の代用と云ふもの

駿河の茶史

まゝこ瓜の茶場あり

かゝれぬ

淨瑠璃姫の巻と云ふもの

新門辰五郎

新日吉の鐘銘

九品佛大茶釜銘

海晏寺の承の雪散

大石河原平間寺名号碑

麻布天眼寺塔の龍の圖

佛庵の古銘の物本

貞倉妙川寺の懸日板碑

國朝大業廣記

白金瑞聖寺鐘の年號

牛嶋弘福寺鐘年號

二条寺城碑教

震字負石圖の七巻本と云ふ

鐘鼎欵識の書本

貸布文字考

増田五郎の波舟の巻

十金堂の巻

二日坊の巻

古鏡而印所記の人々の傳

言和年向東海道之古鏡家

言和の東海人物志所載有言東道之如

書以稽綴の名称

風之宮の御宝珠

内宮之庫の印刻考

神主石教の古印と云ふもの

敬古館陳列の點々貞字印歐沙の古銅鏡

岡寺觀音堂大雅堂の書額

銅大香爐由繪の古額

如取所解力夫の額柳の權書とあり

環の書とあり

江漢富岳之幅

津の寺院の尾
此後中の工をなす
回谷堂海院瑞松校養銀姑
安南徳隆寺の年号
加藤直種父没年月及墓
源竹茂六没年
駿河寺東三没年及墓
駿河の画工泰山の伝説
牛玉印の起り
北順言の短冊
龜坂牛骨出土
龜坂大石見の年月

絶對獨立のこころ
山本勘助の傳説
川喜田又成樂の帳中古銭の遺蹟
ひこひひこ
先代文行堂横尾又治没年月及墓
依田忠海没年月
大江九の句
刀坊文豹の書
自然寺を無法寺
龜坂文書の遺蹟
徹古館列石中の古板

津に於て見たる史蹟歌
織田文書の長命富貴
暎覚の歌
立水堂唐木日鏡中、ある金石
東郡月の名所
新之宮通雄の宅也
平河寺の石名及妙法院に古文字あり馬走の古墳
舟越の草分入
舟越の木塚とあり
富士七見の石名及妙法院
五平太とある石の裏名
武田殿の圖

津に於て見たる史蹟歌
孫次馬陸橋
勢方加藤部守鑑の銘
龜坂大石にあり書り年月
龜坂大石にあり書り年月
大谷焼
今泉の和縁をみる歌か
池田、萬福寺、小鹿、馬越、
宝字鏡三没年月出土
沼津日吉の祭典
銅鐸の出土とあり

殖馬に物たる数の数
加害の環の圖

曲玉や数珠玉に作り珠数
出玉金貝の圖

祝部玉笄のスカシ種類

朝鮮出玉の曲玉管玉

銅鐸の鶴模様の朝野論

鶴模様の出玉琥珀玉出所

耳輪つらなる地輪人形の圖

江戸時流行の俗言及かく一言葉

及古の遺書に就て

福川玄度の花押

古の都々一

大黒柱

牛込のミドヤ所

塩の也塩の井

寺磨のの影

濱名納豆の元祖

遠江の元賀

さや繪の如く

行誼上人の画賛

沢庵の書簡

狐の玉とぶこの

玄度山人村上明庵

東京の縁日

備後大野の原出玉馬

道徳原とよ心名

駿河三十三番北所

仲砲

文久年前の新聞紙

講書旅行と格差元禄三の所觸

志國奉行

柳梅廿五編は高濱

元禄廿年枚の買物調方三合自賣

に載たる駿河遠江伊豆の名物

向系割りの割合及び戸

の書林物三本屋

四谷西倉考問馬三品仙巻

西倉考取部半蔵巻

馬立而踊りや生や樹の木目数

番の類 五福割巻

本郷名物流行歌

常盤高談聯句

大江戸名物流行歌

高岸まの如留や物事

近宝の枚本初春のいらい

元禄枚東海道繪圖

踏霜詩草

東京の延尾ついで始り青瓦を獲し乾也其故
美草集の初摺本
寶の貨物造に巧む人
村田より河の墓
仙名甘文重といひ
入力車發明人の碑
青月梅の青月梅
戸永狗犬の銘
阿波の大神の傳説
玩具に關する心得
寛永板食物本草
アラスカの玩具

八戸せむの如半
一枚堂遺書
物一室の白
仙名甘文重といひ
青山善光寺の庚申塔
岡崎三郎の墓所石の彫の紋
甲斐大塚村の大塚及石居所出
京傳の巴山の印を用い始り年
大文堂屋下馬場の約子
成書柳北と室泉舎の墓心
行藏上人の書り
有故

濱寺流房板容取新通行の鑑塔不心
維々堂赤比等が狂歌のうらまの古首
如電の物の書り
節半の納し
本抄七不思議
日露波の川柳
寛永の印
萬歳々の銘
標有梅
武藏國分尼寺の跡と心
河と向かひのいせうとの理證
萬節の幡幡

河内泉寺古木印影
鑑塔不心の
釘店下駄の切
元文四年のむす
自然湧流
八文の方言
川喜田の山男説
標有梅所載四方寺原刻と同
武藏國分尼寺の遺蹟
大こう流ののり
甲斐河川に載る甲の跡書

如波少将より大寺へ送はる古刀布、癩病者お落
 儀丸と高潔の短冊 延享三年の書目録真の
 魚高人と人力車道の習態 内づけ御紙
 ありおや集るる人 福助や小説に始る年代
 水戸錢と造るる人 静神社の古印
 鹽州者の心算ある画の切 手長足長神社
 維新後萬歳と唱へるる人 新井火町の通信紙
 諸国八幡社の創始年代 謡曲中に親言の事跡ありし
 伊福善部臣徳定比賣墓志銘中の三年康成冬なる康成
 の文より一説し 日記に記されし高野詣り
 可解舟と藤岡塔に記さるる人 上宮太子腹籠りの銅像
 以上

共古日録卷之八日録

名板牛哥
 慶應年向古錢及古錢の價
 高野軍記齋者まきみれ
 節長の竹
 浪花の日記美
 権の葉の下巻
 絶板古状揃
 蓮月と盛屋重長風流の短冊
 武藏國分寺出土の銅塊
 白環禪師の自畫賛三見坊
 高野長英の祀殿と葉し

古今泉貨鑑古今の價
 三都風俗と通し年中行事の書
 松皮細工の巻のこ
 變物製造法
 繪本江戸玉屋のこころ二巻と此の巻
 静園清茶の祖を竹茗堂
 古状揃の信がしる書にあらざ
 鳥居清満の生誕年月
 本邦最初の航海書
 遊行寺の古遺書帳
 地乃長英に似たる逸話

敏取河天三寺出三經筒銘 為引業内れの花木二種

川北初講の物成威福袋のよみ書
以下、目錄の袋中の
妙写

時変の部は、焼場方向地震火雷大水後高時集の成書

細目 文化三年火事 三三六物あり 三三三三三三
天保五供向の檜物あり 同年火事あり 天保七江戸火災 元禄三九出寺の板あり

天保七七島屋のあり 同三三三三 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災 天保七江戸火災

共古日録卷之九目錄

阿久比形鉄籠の通信 鉄籠のつくり 地子の書

飯沼のつくり 藤田幸川當の書 天啓銀の成り

大森古歌詠に於て 藤原銀 山の寺談話會の成り

屋上鐘地の成り 戸々馬箱の成り

太平年表著者大野の成り 會津廻用大觀

飯南京 神功皇后の羽子板繪

七ヶ日りの所載 丹波の食器 駿河府中遊覽記

雪花圖説 岐阜上野川村石橋の成り

江戸有名の景茶屋 駿河上野川村石橋の成り

江戸有名の景茶屋 駿河上野川村石橋の成り

總論 江戸有名の景茶屋

三馬の成り 芝井有竹の成り

省の成り 曲玉の成り 高野の成り

江戸有名の景茶屋 三馬の成り

三馬の成り 三馬の成り

三馬の成り 三馬の成り

三馬の成り 三馬の成り

三馬の成り 三馬の成り

三馬の成り 三馬の成り

三馬の成り 三馬の成り

三馬の成り 三馬の成り

生前諸母やその墓石に刻ま
銀に用いた事
物

数に用いた事
物
言葉の面白く
轉用
筑前玉垂宮古時賣物
南新由乃和年
に用いた
諸説
南新由乃の
下五書籍
子嬰物と
稱した
信乃
其の
説
紀伊國
入行到に
記す
毛鏡の
名
稱
此
の
事
由
田
出
土
祝
部
逸
枚
牛
骨
の
文
字
鐵
の
物
の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用

司サコイ
御
の
事
也
江戸時代
本
の
表
紙
職
也
田
狐
村
の
印
影
中
平
二
年
張
君
表
碑
に
も
鐵
の
物
の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮
出
土
鐵
の
出
土
墳
墓
瑞
後
今
津
村
荒
神
社
の
御
儀
也

木曾名物
堀
友
の
短
冊
古
塔
印
岸
鴨
の
加
賀
籠
可
五
塔
の
籠
を
言
う
鏡
川
の
子
孫
お
六
節
の
村
續
鉄
鉢
も
多
山
光
寺
の
藤
名
古
屋
巨
石
の
文
字
貝
を
み
か
け
し
福
徳
と
稱
す
の
白
色
に
用
いた
觀
念
明
治
初
年
の
古
鐵
也

採り物箱の
方法
道の
幸
に
お
き
三
考
の
年
齡
橋
本
屋
様
の
藤
花
高
倉
匠
屋
敷
草
と
お
お
蘭
雨
竹
風
火
綱
と
譽
紙
の
画
巻
遊
女
の
五
體
を
お
お
板
に
し
て
人
形
石
大
黒
石
磁
子
様
二
三
十
七
屋
十
三
屋
等
の
家
張
佛
像
研
究
の
書
石
山
号
藏
古
物
札

生前諸母やその墓石に刻ま
銀に用いた事
物
数に用いた事
物
言葉の面白く
轉用
筑前玉垂宮古時賣物
南新由乃和年
に用いた
諸説
南新由乃の
下五書籍
子嬰物と
稱した
信乃
其の
説
紀伊國
入行到に
記す
毛鏡の
名
稱
此
の
事
由
田
出
土
祝
部
逸
枚
牛
骨
の
文
字
鐵
の
物
の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用

木曾名物
堀
友
の
短
冊
古
塔
印
岸
鴨
の
加
賀
籠
可
五
塔
の
籠
を
言
う
鏡
川
の
子
孫
お
六
節
の
村
續
鉄
鉢
も
多
山
光
寺
の
藤
名
古
屋
巨
石
の
文
字
貝
を
み
か
け
し
福
徳
と
稱
す
の
白
色
に
用
いた
觀
念
明
治
初
年
の
古
鐵
也

採り物箱の
方法
道の
幸
に
お
き
三
考
の
年
齡
橋
本
屋
様
の
藤
花
高
倉
匠
屋
敷
草
と
お
お
蘭
雨
竹
風
火
綱
と
譽
紙
の
画
巻
遊
女
の
五
體
を
お
お
板
に
し
て
人
形
石
大
黒
石
磁
子
様
二
三
十
七
屋
十
三
屋
等
の
家
張
佛
像
研
究
の
書
石
山
号
藏
古
物
札

生前諸母やその墓石に刻ま
銀に用いた事
物
数に用いた事
物
言葉の面白く
轉用
筑前玉垂宮古時賣物
南新由乃和年
に用いた
諸説
南新由乃の
下五書籍
子嬰物と
稱した
信乃
其の
説
紀伊國
入行到に
記す
毛鏡の
名
稱
此
の
事
由
田
出
土
祝
部
逸
枚
牛
骨
の
文
字
鐵
の
物
の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用

木曾名物
堀
友
の
短
冊
古
塔
印
岸
鴨
の
加
賀
籠
可
五
塔
の
籠
を
言
う
鏡
川
の
子
孫
お
六
節
の
村
續
鉄
鉢
も
多
山
光
寺
の
藤
名
古
屋
巨
石
の
文
字
貝
を
み
か
け
し
福
徳
と
稱
す
の
白
色
に
用
いた
觀
念
明
治
初
年
の
古
鐵
也

採り物箱の
方法
道の
幸
に
お
き
三
考
の
年
齡
橋
本
屋
様
の
藤
花
高
倉
匠
屋
敷
草
と
お
お
蘭
雨
竹
風
火
綱
と
譽
紙
の
画
巻
遊
女
の
五
體
を
お
お
板
に
し
て
人
形
石
大
黒
石
磁
子
様
二
三
十
七
屋
十
三
屋
等
の
家
張
佛
像
研
究
の
書
石
山
号
藏
古
物
札

生前諸母やその墓石に刻ま
銀に用いた事
物
数に用いた事
物
言葉の面白く
轉用
筑前玉垂宮古時賣物
南新由乃和年
に用いた
諸説
南新由乃の
下五書籍
子嬰物と
稱した
信乃
其の
説
紀伊國
入行到に
記す
毛鏡の
名
稱
此
の
事
由
田
出
土
祝
部
逸
枚
牛
骨
の
文
字
鐵
の
物
の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用
朝鮮の
書
體
と
故
字
の
用

木曾名物
堀
友
の
短
冊
古
塔
印
岸
鴨
の
加
賀
籠
可
五
塔
の
籠
を
言
う
鏡
川
の
子
孫
お
六
節
の
村
續
鉄
鉢
も
多
山
光
寺
の
藤
名
古
屋
巨
石
の
文
字
貝
を
み
か
け
し
福
徳
と
稱
す
の
白
色
に
用
いた
觀
念
明
治
初
年
の
古
鐵
也

高野慈尊院下子標石

高野田鐘の年記

高野聖物所書大比呂年表の碑銘有稿

明惠上人の書也

高野十二社聖蹟記大要

信濃松本の民謡方言

東北地方の習俗

竹之臺

傳燈

定家卿の書也

竹之臺初請の神

出雲記に載り也此の御書

芭蕉翁大比呂のり

出雲記の御書也

天奈比賣御書神書

出雲記に及延喜式所載神書也

高野聖物所書大比呂御書

故紙中あり神書

枕書

江戸の書林

山の寺の本屋

ころがらふ本の主人

江戸活板の初め人

月并發句の彫刻代傳

江戸の父山風流と神也 一家仙傳名評状

宗匠の序り目

他人全殿の御書と寶書庵の御書

新年發句の序り目

目録格より京三条大橋通の御書

東海道の御書

東海道と本常路の御書

東海道の御書

久能山記

コトモスの和名

此の御書の根柢と云ふの御書

俗腸を以て芭蕉の御書と解り

千の數を以て神佛に祈願の御書

國之書略解題

伊豆の御書

雲切なる名詞

洗場の石榴口

尾美男の御書

少木など云ふ御書

おれとあふらふ御書

明治元年の御書と御書

おれとあふらふ御書

おれとあふらふ御書

金子に商する理説
 銀の異名考
 長崎長銀の通信
 金に就ての理説
 天文方代々由緒書大要

金銀貨の異名
 世心
 銀に商する理説
 經籍天文解

以上

國文書略解 細目
 土佐日記 枕草紙
 唐物語 中野内侍日記
 多喜寺少侍物語 竹石
 十六夜日記 為津如石
 十訓抄 新内侍日記
 天文方代々由緒書大要
 春日家 奥村家 高橋家 足立家
 淡川家 猪飼家 西川家 山路家
 延中納物語 四喜物語
 方丈記 演中納言物語
 讀史紀傳日記 和泉本朝日記
 如雲物語 宗六朝日記
 新内侍日記 古本朝日記
 大和物語

古錢 錢書 古錢家 錢に商する雜事
 銀下樂

千々大子 湯湯和同 無主銀 負薪自筆錢譜
 かくら銀 古刀布の價 朝鮮銀年代 山丹撰造泰和銀
 下平井田父の銀座の古記録
 千田屋多清 河丹出土銀 かくら銀 寶永火銀傳の行文
 銀瓶と名札の朝鮮古貨
 泉布統志 壽比南山銀の寸尺 仙野英山藏錢書 新天保銅色
 小銀押志 三貨圖會 鏡蓋銀の存枚定数 加治木銀の理説
 負薪の巻 乾隆銀背安南 江戸の古銀高 錢屋用文通國言
 聖福寺出土金銀錢 水戸元豐の鑄造心子 康志後談 蟻鼻銀
 翻刻本泉志の巻 錫種文銀樹 うれスレニ父作銀 其理説
 古貝貨 古泉地名考 元豐寺出土 真書阜高二水澄平所
 藏者 二分金工包 秋田出土和同

かしこい銀形歌 北山の銀文 三カミ銀 かしこい銀 文様對銀譜
 出土古銀 文政古銀 江戸志に引く或草紙銀座 眞書文久
 北海道の平字銀 津中古墳出土と同 江戸志に引く或草紙銀座
 大朝金令 無文銀 根ノ片及永樂銀 青野和誌 元文
 寛永銀形立法 信ノ加銀形法 古銀書名簿
 鳴屋之銀 旭堂極印 正隆銀の形 柳北の戒名
 出土銀形 古銀形人名 近頃の形ノ古銀 寶六貨銀形
 古寛永の筆名 甲府の古銀形 銀鑄画銀 銀形同出土
 銅字極印銀 極印又銀形 刀の古寛永銀 元文寛永銀座
 本朝銀形後重量 幕末諸藩銀 増寺礎石下ノ出寛永銀
 長江寛永紙筆者 古銀買入段人 無文銀形目方
 大キシコノ古銀幣と外國古銀の通貨 青福銀渡来 用安
 家藏銀貨書籍目録

和同開珎銀の珎字 ワイジイの貝貨幣 下野金其書同文銀
 に就し上書 皆本支字あり 十金堂の巻 亨和寺向東海道古銀家
 川喜田之藏張也伏中古銀に同きもの 逸文銀座並出の銀
 寶四貨の標並に巧有る人 銀神志 柳北と宝泉令の巻
 此邊の將も大澤一送らぬ古刀布 水戸銀と作らせし人
 慶應寺向古銀及古銀の標 古今泉貨の銀古今の標
 開帳奉納の銀の作りの類考 銀南京
 天啓銀の偽銀に就て 會津通用大觀銀 寶貨に就て
 銀の向き事也 幕西古銀家の初と終の事 寶貨に就て
 割群出銀の發見と壱草 張見妻碑にある銀字書片
 續録考 明治初年の古銀と成 泉志松葉の詳
 遠江國に鑄銀ありと見ゆの神名 金三の向きと寶貨論

金銀貨の異名 錢の異名 世に就く通信 長途
 長途に就く通信 錢の異名 世に就く通信 長途

以上二百二十目

書籍 画圖 一枚揃 古文書 書籍 簡易雜
 實永収江戸繪圖 佛傳圖會考 成身會臨到書目録
 大徳寺天祿訣 國語古板 元禄江戸繪圖 正徳江戸繪圖
 米屋巻物大徳寺義太夫本 慶長板四休子字文 善治類 書國江戸
 繪圖 東照院屏風 長押の書籍 寛喜古紙 内閣書庫
 切利寺丹書月 小松寺貞心寺古繪乃古文書 善圓名日記
 支那寺古書 大徳寺古書の巻物 大久保
 南の文庫 天明の唐本の價 弘決外典抄發見

大徳の般若經 江戸の大徳寺 江戸の古物誌 物部平一書
 新文の予言文 古今歌合 慶長板書成先考 古物誌
 古武鑑 言信武鑑 批玉号歌合記 山縣君貞白書本
 慶元書目元 言世繪物考前考 大徳板書本
 永正の月活曆 元和板の破邪書 善書集の類本 善書集
 原板 世の甲百首類板 然板古板類 泉字 銀蓮板類
 和歌百鬼夜行 言保板菊畑類 泉本 然心 離人形の本
 投扇興の古書 言正板す甲の金右衛門 然心 草魚板
 の今平本用録 慶長板系性能毒目録 然心 草魚板
 又和板類考言 言の問答本 然心 草魚板
 仙傳ふれ文 見向草 百草子巻 然心 草魚板
 善書集の類本 三徳問答 日存問答 如解板

古事類 大政初記 芝浦竹人の歌歌集 北沢歌集
漢城平岡物語 古歌世相 狂言記 承應寺繪圖書
花鳥遊茶話 八景 川柳の古歌 人情歌行脚日記
八石伝七の浮城物語 三輪青永寺大書院の古歌
多蔵寺の古歌 牛込赤城町の古歌
植物と記 書格月 青政秘伝 古刻及古写
半 (附古歌) 延壽回生傳 村藩に用いた古書格
料理の古書 著知新書の最初のお話 蘭書読本
の書と古歌 船歌 年波の巻 卯月本
吾身神衣の巻 古歌書格 群芳新選
料理の古書 國書志 蘭の書格 蘭の書格
心行の古書 郷里歌 南公の書格 蘭の書格

春の書格 古歌 方言の書 古歌
の巻 和歌の古歌 今昔の書 古歌
刀歌の巻 古歌 諸曲書 蘭の書
能事料理 國朝大業序 何物今古書
綴の巻 雲字負の巻 古の書 古歌
文永寺日録 金糸日録 友古の書 古歌
河原 柳好古 古歌 古歌
舟歌 舟歌 古歌 古歌
之禱 舟歌 古歌 古歌
一枝堂遺書 意示板倉の古歌 赤比等の古歌
標者物 甲斐の古歌 古歌
叙瓦の古歌 古歌 古歌

高岳のり 日歌 日詩 親高工七五万のり 歌
松屋筆記に載る 銭に就て追記

銭形 足先 銭幣 青人記 了り 中 銭目
買春銭 青蛙 永樂 五京 銭 銭 銭
一銭多 銭の幕 四五 銭 川 銭 六 鑄 銭 銭
彼國の書にのり 弁 那 銭 十五 銭 有 銭 銭 銭 銭

兼奴 河と 銭と 米と せ せ 歌
一銭 四 五 一 銭 一 目 銭 色
盗人に負 銭 段 銭 司
所 屋 達 銭 鑄 銭 司

銭樹 銭十 銭 靴 物 銭 源 也 哉
銭 靴 天 銭 屋 と 而 鑄 屋 銭 相 場
發 源 所 の 古 銭 善 銭 四五 銭 五 銀 五 銭 の 五 里 銭
銭 形 の 菓子 省 而 と 長 而 銭 新 大 銭 福 農 及 瑞 青 山 書 年 代
銭 葵 銭 絡 半 而 銭 銭 座 所 實 永 而 常 芽 波 形 模 様 銭
紅 毛 人 當 而 銭 鑄 本 邦 興 福 寺 金 堂 跡 和 同 銭 出 土
類 高 迄 能 中 廻 喜 銭 出 土 興 福 寺 金 堂 跡 和 同 銭 出 土
甲 斐 の 古 法 今 中 方 の 銭 幸 高 對 古 法 以 成 了 銭 靴 一
二 倍 成 就 古 文 書 今 城 本 水 邊 僧 寺 所 載 依 舊 家 由 緒 の 銭
銀 銭 鑄 文 に 筆 通 銭 鑄 の 事 あり 前 代 銭 鑄 目 録

銭 鑄 文 に 筆 通 銭 鑄 の 事 あり 前 代 銭 鑄 目 録

折二

古銀の沿革

錢の解

破銭行

共古日録卷十二川録

神社史及神道に及る要三

古今抄の宗教將來説

幾何の数の名称

四十二年今國始姓数

十七年一十年迄全國變遷の宗教

ヤ一入る及るに對せ國學の是

明治前記抄終

新ぬらぬ命と日の丸

此ものゴシボダ子

正倉院三倉の古物抄の元子

米國箱の中ビリリ

玩具の心理的の分類

御製教理精蘊

西城物語

累年一由十三年間全國情状の宗教

神道は老子の境に同じとの論説と主張

神道に就て春海の説

召津日吉神社祭礼不用の額

柳國始姓のサカシの念所元

日産過古教象抄寫

馬琴が子寫され日本外史

珍書歌謡併覽必要なる果慶抄

抄文行堂より世に出る其歌巻及抄本行堂の存抄
古歌謡確実必讀書籍及此本之の爲記の要
成の年買物玩具の國
戸山石の石の石
妙前也の傳説
カニカニの石の石
以高せる諸説
東京の大本
攝摩の道祖
の像と東海道の道祖神の像
牛善光寺の堂へ入る
美女木八幡の鐘及其の伝説の類
子ガタ祭
催馬樂にある老翁の謡也及唄
鷄林の名称起し地
和名抄所載道祖
和名抄所載道祖に記したる齋の神
和銅の和熟和の和
老檀軒以前墳墓を尋し入

安國論に記す
律令始
寶引
どいどい焼
武蔵書山也土龍伝の記

古の日本地圖
江戸時代所存の五月
大坂土龍伝の意風と其分の諸事

共古日録卷十三目錄

遠江の古物

和紙の古物

徳島承久の古物

二河坊の古物

福中

真顔の古物

静園の古物

三社託宣の古物

河波の古物

遠江の古物

和紙の古物

徳島承久の古物

二河坊の古物

福中

真顔の古物

静園の古物

三社託宣の古物

河波の古物

装束の古物

神田の古物

芭蕉の古物

園崎の古物

金物の古物

鏡の古物

遊女の古物

さくらんぼの古物

鮎の古物

山形

料理

講武の古物

右新田の古物

蓮花の古物

三河の古物

十二の古物

河波の古物

徳島の古物

天保の古物

記の古物

吸の古物

四谷の古物

前左銅鑄蓮花の年號
三條公家一の著者乾元代御實の文
元福枚貫お洞方記ととれり
繪馬 呂律奴
天明七年枚七廿日
延氣樓の住業と信まじり
海張也方山業者の名跡
辨族のマシラに就く高鳥博志の院
平まの遺事のため子の成程及御本
詔書 女中との孫
神前の御
三河羽田の揚の成書
正合院御物中の刀劍

刀匠の流すの書説 刀銘
新島正受院三條の老安と鐘の年号
紅の葉とふ枚解 十三件 信作の起り
斗の河の所より枚解新行色と 如く海堂臨吉著書にの幅
元和枚又満言のの刻 道りの御印の御
順天聖の名稱の類及竹井憲の書幅
如く北由翁記行の冊子月録 初代廣重居住の所名
古の御子歌うる角ある事 幹支分が北家も持身書籍の
持手茶碗親王とあり 今も只女庫印の三條あり
神葉式も書也 多心祝部日記
殿の上井心も錫せかぶせ 御前登見さし
春日神事も供する魚の事さし 箱根の石抄の御

善得寺社の東方麓
夜神と藤原将末
ウニナシの信仲
高木其心の子
古谷其心の子
板井其心の子
火南其心の子
銅形
雁金おとこ

馬場川越の夜神
提灯坂の夜神
玉川文庫の夜神
内閣文庫の夜神
山の内
土鈴の古
赤銅の古
鳥の古
潜水の古
坂の古

武家三三三
錢類
付井古蔵の納本の印
神田孝平の古印
大橋麻大の古印
牛骨文子
支那の古印

山の中
錢類
高野長英の子
東多の古
印影菓子
玩月下の古
程赤城の古
内閣文庫の古
入頼記の古
坂下の古
ト方ボロシ

磯崎自画の歌のし冊子
江戸時代歌人
朝人坊主
千代子
護國寺の観音
白鳥の歌
ひより娘の植
松飾の種類
火及所家の歌
細川家の歌
河津か人の歌

九筆の寺民向の歌
江戸時代歌人
煙り
九鬼家の歌
熊倉家の歌
子り切年の歌
川出家の歌
水戸家の歌

共古日録巻十五
林向母の歌
平田篤の歌
只大寺の歌
河合の歌
甲斐の歌
昭見の歌
馬工の歌
御物持の歌
竹園の歌
河内登壇の歌

江戸時代歌人
河内登壇の歌
人哥
古墳の歌

岩手県
盛岡の藩政

藩政の字訓
然るに力多き者

藩政の極
伊予の藩政

林政の字訓
伊予の藩政

伊予の藩政
天正の藩政

川政の字訓
伊予の藩政

伊予の藩政
天正の藩政

乃木半右衛門の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

近藤の藩政
伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

伊予の藩政

成子の六三子
ビリケン
真赤なるいそ

正徳版勝名鏡
秀所に七三子ありその人

共古日録卷十六目録

大正年向者知出の銅鑄
博物館蔵者三貨因景
伊勢の瓦經新巧の鏡蓋の押指あり
專鳴吟中鐘年鏡
王子松見燈籠是銘及金輪有藏古鏡卷
燕國本然玩具
柳津の土鏡牛
播磨の土俗
愛媛縣の板碑
今石和志記せる多調碑
中里村王子松見の鏡口銘
八幡右の板碑
板碑所在也
義子近以勸六の弟文更の住寺
おきんは長治の墓
近江肥田の板碑
及木札の年強あり
三改七年書事
二東大文心志
新編武蔵府志
相尾四惠三太五郎及新板碑
近江全約の長文句

香森殿下の長慶天皇の古跡と云ふ 見廻内者

千藤百夏斗の短冊

護運牛

瑞草の白

弘前三城の塔院

かきん殿無事の墓ありきりあり

川路孝東の隠世

明治七年後前大形見世物お祈

明治七年七藏馬也の代僧

押身より夜の墓

四谷三ッ人コ岸本

而而天中つゆ宝珠夢のあけのあ討子

カニニハの度ト

瑞田の川岸つゆつゆ

同百の五粒津がしんま

明治五年遊女篇お祈

河内南の岩船無岸の佛塚

大久保より見たる柱立の式柱

燈火まきこる信馬場を捕らふ

高野僧の如部談

新築の式塔の墓形

環々西に騎馬に就て雖も所心の記事

三心任定次とある三ッ一カルタ

孝書楊を成し居りて心

二心の帳の枚碑

霧のつゆつゆ

千八百九十九年つゆつゆ

ニッの長安

日向の岩船無岸の佛塚

おさなるお

千懸の石塔の銘

あつたつたつたつたつた

文代十年の羽刺殿

文代十年の天運及事

文代四年の羽刺殿

文代十年の羽刺殿

文代三年の羽刺殿

西院の枝詞

殿上人各出名目

大恩寺の遺書

成書を成るに到る中者

相蜀死

明治五年の歳書

江戸めだの各本
江戸の三辭天
弘化三年本九女中の数
日年の篇中約 日二の九
天保九女中惣数
女中とあぬの次男
江戸各本
北条とあぬ成のはたはあぬ編の
竹笑山笑
百度詣 千度詣
二代目曲三團

江戸めだの各本
江戸の各本
日年西九女中数
女中の以下
吉原細見及板本
中野照神社
塩新
明治五年の唐書料

仙傳系とて初めはの墓
江戸三篇 歌多し評
江戸神佛 立勢一覽 (三篇並
支那の春菊
萬葉集に花鳥文
同々 珠間の初
心のかみり のぬ歌
禁本 神理
極多箱
事流 言の随筆
明治五年の唐書

江戸各本 追憶
山女香坂孝父
立勢一覽 (三篇並
宣教使
曹興の各本
文政二 役宅の狂歌
江戸の各本
江戸の各本
江戸の各本

武州者神の妙林

天恩弘平の信

千社信の信

納れ起原の二篇

錦画の信

草子七篇

竹の信

孔子の信

の信

納れ起原の二篇

題名信説に二枚あり

百種原紙

千社信の信

明和五年の給札に千社信の信あり

納れ起原の二篇

錦画の信

草子の信

竹の信

孔子の信

の信

納れ起原の二篇

題名信説に二枚あり

御方及び守題名信説の御来次第

と久二年の題名信

徳忠の納れ

大里天の納れ

追手整意の納れ

天恩弘平の納れ

勅書納れ

廿三次の納れ

加十の納れ

納れ起原の二篇

攻の連の信

大向富の信

八角連の信

藤井の信

天皇能勢の信

天恩弘平の信

勅書納れ

廿三次の納れ

加十の納れ

納れ起原の二篇

攻の連の信

模造古印

鳴子天神石物火の記
高野山の普賢の行
大黒の年の水戸の
子の日の小娘の
二月の日のあしし

初も

文久の年

芭蕉の句

トニトニ月鏡

追根の場牛乳とせし話

馬車頭と女の祝言の如

印刷屋家の木印

立圃の画

おとぎのちりさまのやうの手

一代の三枚の一代の

初子

初夢

羊羹の種類

野山小娘の郷里

外とちりさまの

テコナ

ドラミラ九文三分

盲人桶屋の又物と女あしし

怪日蓮の著者説

平手監物の墓

三つ國界の力マが獄多の古社

右のつぼねえの板碑

山崎のつぼねえの板碑

西大久保のつぼねえの板碑

大久保のつぼねえの板碑

大久保のつぼねえの板碑

大久保のつぼねえの板碑

大久保のつぼねえの板碑

大久保のつぼねえの板碑

大久保のつぼねえの板碑

大久保のつぼねえの板碑

演武の鬼木

西鶴の本

大久保の木

の板碑

の板碑

の板碑

の板碑

の板碑

の板碑

の板碑

の板碑

の板碑

の板碑

建礼門山寺実牛の橋

建礼門の廣申と云ふは
御幣の瓦經の出だ

御幣にワタヒツシガ

の如きあり

寛文板日光繪圖

三原と武藏の書に刻あり

男色重房某の包心

長常多の他も又瓜

唐申供養の石燈籠

叶福印に就く

草碑考あるは

草碑考あるは

漢碑考あるは

漢碑考あるは

猿の向ふにアコ

文宣帝の音の如く歌

抱一琴習うの如く

抱一琴習うの如く

橋名山鐘の如く

野里梅園の如く

白井光太郎の如く

白井光太郎の如く

橋名の如く

橋名の如く

也者殿の如く

也者殿の如く

大也殿の如く

共古日録卷十九目錄

初午に秋の枝葉をわらうし
春物ヲ鳥草の生ヤレシヨ

左邊の古色経書山今山説
右邊の古色経書の理説

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

河川の名を記す
河川の名を記す

吉原の懐紙
 坊の町村の玉の枚碑及其の記
 大宮の橋社と社殿の鷹の繪馬
 武蔵の薬草の會せり
 鳥樞琴摩明王の劍神のまじり
 赤魚の記

共古日録卷二十目録

佛具の魚形を改する意
 午谷小字の
 うせたりの説明
 痛癢の
 連珠の
 新玉根根の
 成る
 成る

ウエルカ

聖書に記載の
 痛癢の
 一両の
 三村の
 支那の巨人の足跡あり

ヤギンガ

お袖判

三河

三河

谷

本妙寺

元孫

龍前

村

土人形の天味

三河板橋の

三河の

大東

玉川

龍周

土

船

三河の

龍前

元孫

本妙寺

三河

三河

谷

本妙寺

元孫

三河

龍前

元孫

本妙寺

三河

三河

谷

本妙寺

元孫

東京の

神玉

弘前

成田屋人形
紅葉川とみちの岸
とむる也

天顯通室の出土也
古今書物集及文の
好中子無事等の話の



